

②生産履歴の明確化や減農薬栽培等による付加価値向上

埼玉県産・減農薬・減化学肥料にこだわり、特定生産者の顔が見える新たな小麦粉製品群の開発・販売

JAいるま野の協力の下で、これまで小麦では取り組みが難しかった「生産者の顔が見える」仕組みを作り、埼玉県産の減農薬・減化学肥料の小麦を使用して、新たな小麦粉製品群を開発し販売を展開する。

➤ 連携体

農林漁業者

原農場（農業）

減農薬・減化学肥料の小麦を栽培し、JAいるま野の協力の下で、生産者が特定できる形で安定的に提供する。

中小企業者

前田食品（株）（食料品製造業）

生産者の顔が見える新たな小麦粉製品群（全粒粉・石臼粉・ローストフラワー・ロースト小麦胚芽）を開発・販売する。

連携参加者

幸手市商工会、(株)津気屋（飲食店）、
(有)ちぐさ、パン工房あつみや（以上、飲食料品小売業）

幸手市商工会は普及・PRの支援をし、(株)津気屋・(有)ちぐさ・パン工房あつみやは小麦粉を使った商品開発を支援する。

サポート機関等

埼玉県商工会連合会、地域活性化支援事務局

➤ 連携の経緯

埼玉県産の減農薬・減化学肥料の小麦粉製品開発を検討していた前田食品(株)は、坂戸市内でJAからの信頼もある原農場に、温湯消毒による小麦の栽培と生産者の顔が見えるための流通の仕組み作りを依頼した。原農場も自ら栽培した小麦の付加価値向上を模索しており、連携に至った。

原農場の小麦畑

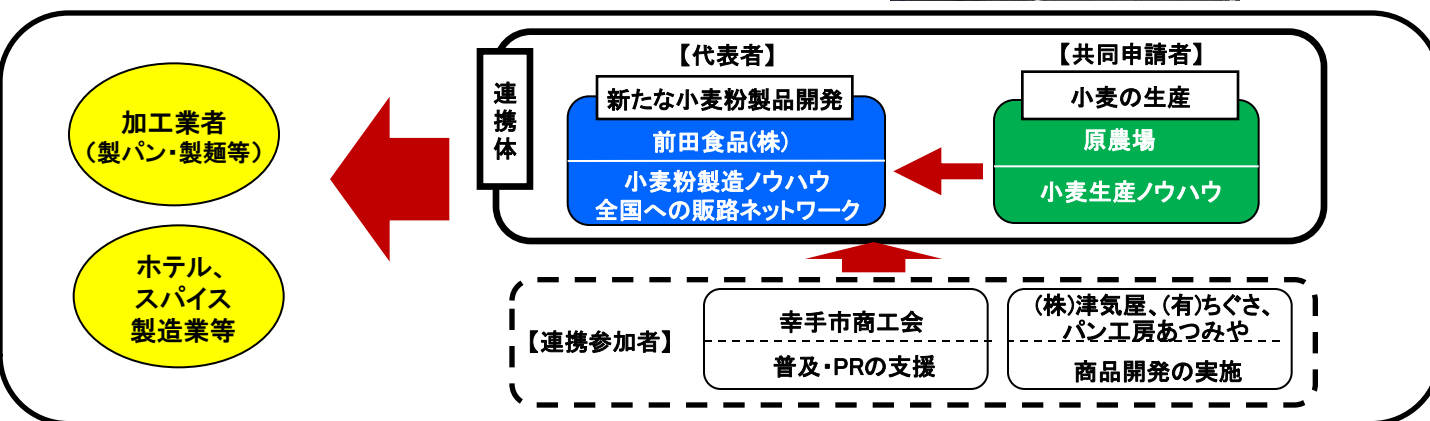


➤ 連携に当たっての課題や工夫等

原農場は温湯消毒による小麦の栽培に組み込み、その方法を確立するとともに、栽培面積を拡大し、遊休農地の解消を図る。前田食品(株)は、原農場で生産した小麦を使用し、全粒粉・石臼粉・ローストフラワー・ロースト小麦胚芽という新たな小麦粉製品の開発を行い、埼玉県産小麦の付加価値向上を図る。



前田食品の製粉工場



➤ 連携による効果

農林漁業者

5年で276万円の売上高増加、耕作放棄地(休耕田)11haの解消

作付け面積の増加とともに、減農薬栽培技術を近隣農家にも普及し、地域の農業経営の安定に貢献すると期待される。

中小企業者

5年で2,500万円の売上高増加、地元雇用1人の増加

埼玉県産・減農薬・減化学肥料の小麦を使用した新製品開発と販売により、売上の増加と地元雇用の増加が期待される。

➤ 代表企業等の連絡先

企業等名：前田食品株式会社
TEL：0480-42-1226
E-mail：info@maedashokuhin.com

所在地：埼玉県幸手市南1-7-25
FAX：0480-42-1227
ホームページ：http://www.maedashokuhin.com